

## 「九州の未来力2030」座長提言

### ～第1回会合を踏まえて～

#### 1. はじめに ～ 一極集中の三層構造からグローバルネットワーク都市へ

九州の経済構造は、依然として内需産業に依存しており、伸長しつつある外需をさらに取り込んでいく余地は十分に残されている。また、経済規模は台湾とほぼ同じであるにもかかわらず、外資の導入は台湾に比べて大きく遅れている。一方、九州企業において海外進出を強める動きもあり、インド・ASEANの存在感が増している。

アジアのダイナミズムを九州に取り込み、同時に人口高齢化社会に順応していくためには、九州産業のグローバル化とアジア諸都市のモデルとなる安全でコンパクト、快適かつ利便性の高い都市作りが必要である。このためには従来の一極集中の三層構造（注）から、九州各都市の都心と郊外が生きていて楽しくかつ住み易く（ハイクオリティ都市）、さらにはグローバルネットワーク都市として、どの様な姿でアジアシフトしていくかという、東京オリンピックのさらに10年先を見据えたオール九州の構想が必要な時代となっている。

構想にあたっては、従来のマクロ的総花的アプローチではなく、ミクロ的選択的アプローチにより、より実現性の高い構想が求められている。また、日本に寄せるアジア諸国の信頼と期待感に応じていくという視点も構想に十分生かしていくべきではないだろうか。

本会合では、このような九州を取り巻く環境や課題などを踏まえ、メンバー相互の問題意識や意見・情報を交差させることによって、化学反応的に湧き出してくる新しいアイデアや構想等について、原則として会合毎に座長提言をとりまとめていきたい。

なお、本提言は、メンバー全員の総意を代表するものではないが、それぞれのメンバーが平素の活動の中で役立てたり情報発信していくために活用できるようなものとすることによって、それが九州の持つ潜在力を引き出し、未来をデザインする力（未来力）の強化に繋がっていくことを強く願っている。

（注） 一極集中の三層構造とは、 1）東京（大阪、名古屋） 2）地方中枢都市（札幌、仙台、広島、福岡） 3）県庁所在都市 の三層構造。

#### 2. グローバル人材の育成 ～九州出島構想の実現に向けて～

オール九州で成長するアジアと向き合っていくためには、グローバルな人材の育成に力を入れ、九州を国内外の人の流れが向かって来るような魅力的な場所とするための取組みが必要である。

九州出島構想（注）は、九州が一極集中の三層構造から、アジアシフトしていくための貴重な提言である。とりわけグローバル人材の育成と”人流”活発化構想は九州各都市のグローバルネットワーク化に不可欠である。ウィンブルドン化をおそれず、アジアの活力を九州に呼び込む構想が必要であり、九州出島構想はひとつのきっかけになり得るのではないか。経済団体等においては、九州出島構想をぜひ検討していただきたい。

（注）九州出島構想とは、本多機工(株) 龍造寺社長による提言であり、グローバル人材の育成（国際化大学のさらなる整備など）、アジアとの「人流」の活発化、魅力あるインフラストラクチャーの整備などからなる九州経済のグローバル化構想。

### 3. 地方と企業の自立

九州がアジアの活力を取り込んでいくには、地方と企業が自立していくことが求められており、観光を“人流”という観点から捉え直し、農業を食品産業全体の中で捉えるなど、産業の在り方について新たな視点が求められている。

また、地域が自立するには、既に述べたようにグローバルネットワーク都市へシフトしていくことが求められているが、何をなすにも労働人口の減少と人材の確保という問題を避けて通ることはできない。質の高い人材を確保するために、大学のさらなる国際化を行うことにより、より多くの留学生の受け入れを進めるべきであろう。

質の高い人材という観点からは、男女共同参画社会を民間の力で進めて行く必要がある。女性が新しい市場の発見や消費を牽引している事実に向けると、九州企業の財・サービス市場を内外に拡大するためには女性の力が不可欠であり、企業は女性の力をどう引き出すかについて、企業組織や人事の在り方にまで踏み込んで意識・発想を転換していくべきであり、また、金融機関には女性企業家の支援をぜひ強化してほしい。

平成26年2月6日

九州の未来力2030

座長 森本 廣